

広小路今昔コース詳細

① 朝日神社(あさひじんじや)



中区錦三丁目 22-21

慶長 16 年(1611)、「清洲越し」にともなって、朝日村からこの地に移り、広小路神明宮として親しまれた。

祭神は天照大神と天児屋根命。境内・児宮社の赤丸神事は子どもの厄除けとして知られる。

広小路通りに面して立つ透垣は、向かい側にあった尾張藩牢屋の「不浄除け」の名残として珍しい。

② 白川公園・科学館・美術館(しらかわこうえん・かがくかん・びじゅつかん)



中区栄二丁目 17

昭和 42 年に開園した面積 8.93 ヘクタールの都市公園。園内にある科学館は市制 70 周年記念事業の一環として建設された。



〈名古屋科学館〉

昭和 37 年に天文館、昭和 39 年に理工館、平成元年に生命館が開館した。天文館、理工館は、平成 23 年 3 月に、ドーム径 35m の世界最大のプラネタリウムドームや高さ 8m の人口竜巻などのエンターテインメント性豊かな大型展示等を備えた新館としてリニューアルオープン。



〈名古屋美術館〉

昭和 63 年に開館。ゴールド・パリ、メキシコ・ルネサンス、地元作家の優れた作品を収集、展示している。

③ 洲崎神社(すさきじんじや)



中区栄一丁目 31-25

社伝では貞観年間(860 頃)の創建で、広井天王、牛頭(ごず)天王社、天王崎神社などと呼ばれた。

古くは、ムク、エノキ、カシ、マツなどが密生した広大な境内だったが、慶長の名古屋城築城のときの堀川開削で狭くなった。

五色の鈴の郷土玩具が昔から知られており、大須新地の女郎衆の信仰も厚かった。

市指定文化財の宝物など多数所蔵。

① 若宮八幡社(わかみややはちまんしゃ)



中区栄三丁目 35-30

もとは那古野庄の今市場という地(のちに名古屋城内になる)にあったが、慶長の名古屋城築城のときに現在地へ移された。城下名古屋の総鎮守として親しまれた。

名古屋三大祭のひとつに数えられる例祭(若宮まつり:5 月 15 日、16 日)は、神輿、山車を引き出し華麗だったが、戦災でほとんどの山車が焼失し、現在は福祿寿車山車(市指定文化財)を残すだけ。

② 政秀寺(せいしゅうじ)



中区栄三丁目 34-23

万松寺での父・信秀の葬儀に、香をわしづかみにして投げつけるなどの狂気の振る舞いが続く若き日の織田信長の守り役として、死をもって諫めた平手政秀はあまりにも有名だが、この寺は、天文 22 年(1553)、信長が政秀の菩提を弔うため、小牧山の南、小木村に建立したもの。

慶長 15 年(1610)、現在地に移る。臨済宗妙心寺派。

③ 白林寺(はくりんじ)



中区栄三丁目 25-18

臨済宗妙心寺派。

寛永 2 年(1625)、藩祖・徳川義直が重臣・成瀬正成の菩提のため創建したという由緒をもつ。以来、成瀬家(尾張藩家老、犬山城主)の菩提寺として護持されたが、昭和 20 年 3 月 12 日の戦災で御霊所を除いて焼失した。

剣術で有名な尾張柳生家の菩提寺でもある。

④ 勝鬘寺(しょうまんじ)



中区栄三丁目 33-10

本寺を岡崎の勝鬘寺とする真宗大谷派の寺院。

もとは清洲にあったが、慶長 17 年(1612)、名古屋に移り、寛永 9 年(1632)現在地へ移った。

境内東北角には入母屋造の大屋根の上に同じ造りの重層をあげ、太鼓を備えた鼓楼があり、明治を迎えるまでは太鼓を打って時を知らせていたという。

山門、本堂、太鼓楼は市指定文化財。これらに鐘楼を加え都市景観重要建築物に指定されている。

⑤ 萬福院(まんぷくいん):栄・成田山



中区栄五丁目 26-24

真言宗智山派の寺院だが、「栄の成田山」として広く信仰を得ている。

安土・桃山時代(1596~1615)、名古屋城の築城にともなう町づくりの一環として、名古屋・栄に移転。大正元年、成田山の大本山である新勝寺より、不動明王ご分身を勧請しご本尊とした。同時に成田山・名古屋祈願所となった。

平成 14 年(2002)現在地へ移転した。